

弥生の出雲王に出会える

季刊

第55号

(2024年10月)



出雲弥生の森博物館だより

IZUMO YAYOINOMORI MUSEUM

★秋季企画展

「出雲平野の後期古墳」

開催中〜12月28日(土)

今年の12月9日、出雲市今市町の今市大念寺古墳、上塩冶町の上塩冶築山古墳、上塩冶地蔵山古墳が国史跡に指定されてから、ちょうど100年を迎えます。これを記念して、秋季企画展「出雲平野の後期古墳」を開催しています。これら3基の古墳は、古墳時代後期(6世紀から7世紀前半)に築造され、内部の横穴式石室には、出雲平野を治めた豪族が埋葬されたと推測しています。

今回の展示では、これらに加え、出雲平野を流れる神戸川^{かんどがわ}の右岸と左岸にある古墳群や横穴墓群を紹介します。出雲平野の後期古墳や横穴墓群の出土品を一堂に集めて展示するまたとない機会です。ぜひ、ご観覧ください。

ここでは、私が重要だと思ふ銅製の鈴を紹介します。鈴といっても色々な種類がありますが、最も有名なものが重要文化財に指定されている上塩冶築山古墳の鑄造の鈴です。一方、今市大念寺古墳の出土品が描かれた江戸時代の絵図には、金色の鈴が描かれています。

残念ながら現存しませんが、同じ鍛造の金銅鈴が出雲平野東北部の国富町、国富中村古墳から出土しています。また、現存しませんが、下古志町の妙蓮寺山古墳と国富町の上島古墳では、5つの鈴が付いた腕輪(鈴釦)が、上島古墳では鏡(五鈴鏡)も出土したようです。

上塩冶築山古墳の銅鈴
(高さ5cm)

今市大念寺古墳絵図の金銅鈴(島根県立古代出雲歴史博物館所蔵)

国富中村古墳の金銅鈴
(高さ5cm)

部の棒と触れ合って音が鳴ります。島根県内では浜田市めんぐろ古墳や益田市小丸山古墳でしか出土していない貴重な資料で、現存古墳を代表する副葬品です。ここで取り上げた各種の鈴はいずれも国産で、倭国独自の形にアレンジされたものです。このような鈴は主に6世紀の倭国の主要な古墳から出土します。このことから6世紀の古墳時代人は、鈴を好んで使っていたことがわかります。鈴は鳴って始めて機能します。「チリン・チリン」と鳴る金属音は、当時の人にどんな思いを抱かせたのでしょうか。展示を見て、感じてください。(坂本豊治)



今市大念寺古墳の出土品絵図の馬鐸(『島根県史』第4巻)



めんぐろ古墳の馬鐸(宮家敏明氏所蔵、高さ20cm)

★ギャラリー展

「出雲の近代建築」

10月16日(水)～1月31日(金)

今回のギャラリー展では、主に
出雲の近代建築について紹介しま
す。

明治時代、日本は西洋の技術を
積極的に学びました。建築もその
ひとつです。

日本における近代建築とは、
十九世紀末から二十世紀に建てら
れた、西洋の技術を取り入れた建
築の総称です。

代表的な近代建築には、迎賓館
赤坂離宮や日本銀行本店本館な
ど、東京にある大きな国立の建築
があります。

これらの近代建築は、明治時代
に日本で初めて西洋建築の教育を
受けた、「建築家」によるもので
した。

一方、島根県では、興雲閣(松
江市)に代表される、日本人大工
が西洋建築を模倣した「擬洋風建
築」が建てられました。現存しま
せんが、かつての島根県庁も同じ
ような瓦屋根を持つ擬洋風建築で
した。

出雲市域でも、擬洋風建築が建
てられましたが、出雲市域では伝

統的な和風の建築を踏襲した建築
も数多く建てられました。その代
表的な近代建築に、重要文化財・

旧大社駅本屋(大社町北荒木)があ
ります。旧大社駅は1924(大
正13)年に建てられた、伝統的な
木造平屋に白漆喰の壁を持つ瓦葺
の建物です。しかし、広い空間を
作るトラス構造や窓ガラスなど、
西洋由来の技術も使われていま
す。

出雲に残る近代建築は和風の外
観をした建物だけではありません
。出雲大社前駅(大社町杵築南)
は1930(昭和5)年に建てられ
た、神門通りでもひととき目を引
くモダンな駅舎です。特徴的なス
テンドグラスは島根県内でも珍し
く、今も出雲大社への参拝者を迎
えています。(永川 ひかる)



一畑電車 出雲大社前駅舎

★速報展

「市指定史跡・矢野貝塚を掘る」

「弥生時代出雲のムラと暮らし」

開催中(2月3日(月))

貝塚とは、食べた後の貝殻など
が捨てられて溜まった、ゴミ捨て
場の遺跡です。貝塚を調査すると、
当時の食生活や生業を知ることが
できます。

出雲市矢野町にある市指定史跡
「矢野貝塚」は、出雲ドームの南
側に広がる出雲平野屈指の大集落
「矢野遺跡」の範囲内で発見され
ました。貝塚から出土した遺物を
みると、ここで暮らした人々は、
お米に加え、汽水産のヤマトシジ
ミや海産貝類、魚、シカなどの獣
を食糧としていたようです。

出雲平野のほぼ中央に位置する
矢野遺跡は、縄文時代の終わり頃
(約3000年前)から生活の場と
なり、弥生時代中期(約2400
年前)以降には「よつがねムラ(四
絡遺跡群)」の中心的集落として
発展しました。貝塚が作られたの
は、弥生時代中期から古墳時代初
頭(約1700年前)までの間で、
矢野のムラで人々が盛んに活動し
ていた時期と重なります。

2023(令和5)年、出雲市文

化財課では、約30年ぶりとなる矢
野貝塚の発掘調査を行いました。
貝塚は発見できませんでしたが、
弥生時代の竪穴建物跡や、多量の
弥生土器などの遺物が見つかりま
した。これらは、矢野のムラでの
人々の暮らしの様子を示す重要な
発見となりました。

展示では、こうした調査成果



や出土遺物か
ら、弥生時代
の出雲平野に
おける人々の
暮らしの一端
を考えます。
(景山 このみ)



竪穴建物跡と弥生土器・石器(2023年調査)

材料・景品が
なくなったら
終了するよ！



日程が変わる
場合があるよ。
最新情報は
HP やインスタ
をみてね！



キャラ探しスパー
わたがしコーナー&屋台村



パネル展「三谷神社と投げ獅子舞」



火起こし体験

ものづくり体験
よすみコースター
をつくろう



★出雲弥生の森まつり 秋

11月3日(日・祝)10時〜15時

★市民ギャラリーの利用について

出雲弥生の森博物館では、たい
けん学習室前のホールスペースを
市民ギャラリーとして開放してい
ます。市民の皆さまの力作をお披
露目する場として、ぜひご活用く
ださい。

昨年度は、「創作人形展」や「花
の宝石箱」レカンフラワー入賞作
品展」など、複数の展示会を開
催し、魅力的な作品の数々を出品
いただきました。

出雲弥生の森博物館は、市民の
皆さまと共に、魅力ある博物館を
創り上げていきたいと考えていま
す。

皆さまの応募を心よりお待ちし
ています！

【市民ギャラリーについて】

● 無料

※展示内容については、事前に審
査を行います。ご了承ください。

みんなの
応募を
待ってるよ！



★古文書の森をゆく⑳

史料探訪―発見された古文書―

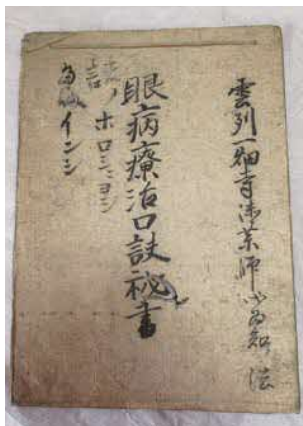
前回に引き続き、文化財課が
行っている古文書調査についてお
話します。各地域の神社仏閣や古
くから地域にお住まいのお家にお
伺いする中で、所有者のご厚意に
より古文書を寄贈していただくこ
とがあります。一番多いのは土地
や金銭に関する証文や記録帳簿類
で、読み物の本、個人の手紙、日記、
地図・絵図などが続きます。お金
や土地の権利に関わる書類は、今
も昔も変わらず最重要事項である
ため、その証書や記録は大切に保
管され、後世まで残っていること
が多いのです。また読み物の本が
残りやすいのは、本自体が比較的
高価で貴重な娯楽であり、長く読
み継がれたためと考えられます。
こうして残されてきた物の中か
ら、珍しい史料を一つご紹介しま
す。

江戸時代に庄屋を務めていた家
で見つかった古文書には、一畑薬
師で教えられたと称する薬の作り
方を書いた冊子がありました。作
成された年の記載が無いため、い
つ頃のものか定かではありません
が、文章の書き方などから江戸時

代のものと思われます。内容は目

の病に効く塗り薬や、腹痛に効く
薬など様々な薬の作り方とその材
料について書かれています。材料
は「黒豆三粒 小豆三粒 山椒」
と言ったようにごく身近な物もあ
れば「石膏」「辰砂」など鉱物と
して扱われる物も含まれていま
す。これらの薬に本当に効果が
あったかどうかは、わかりません。
本当に一畑寺が伝えたものかどう
かも定かでない一冊ですが、眼の
お薬師さんとして著名な一畑寺へ
の信仰があったから書かれたもの
であることは間違いなく、その影
響力の強さを示す史料と言えるで
しょう。

また他の地域にはない、出雲の
地域に根差した信仰に基づく独特
の史料であるとも言えるのではな
いでしょうか。
(荒川 英里)



「雲州一畑御薬師御為知ノ法
眼病療治口訣秘書」(出雲市所蔵)

★展示のご案内

▼秋季企画展

開催中 12月28日(土)

「出雲平野の後期古墳」

●ギャラリートーク

10月12日(土)、11月17日(日)、
12月15日(日)※12月15日のギャラリートーク
は手話通訳あり

※いずれも10時～

参加無料・申込不要

▼ギャラリートーク

10月16日(水)～1月31日(金)

「出雲の近代建築」

●ギャラリートーク

10月20日(日)、11月10日(日)、
12月22日(日)、1月12日(日)

※いずれも10時～

参加無料・申込不要

▼速報展

開催中 2月3日(月)

「市指定史跡・矢野貝塚を掘る
～弥生時代出雲のムラと暮らし～」

★講座・講演会のご案内

▼秋季企画展関連講演会

① 11月9日(土) 14時～16時

「ひびぎ」からみた古墳時代の出雲」

● 講師 岡林 孝作 氏

(奈良県立橿原考古学研究所)

② 11月30日(土) 14時～16時

「古墳時代から飛鳥時代へ
～畿内と出雲を比較する～」

● 講師 廣瀬 覚 氏

(奈良文化財研究所)

● 受講料 無料

● オンライン配信なし

▼館長講座

① 10月27日(日)

「出雲市内の古代中世寺院①
～備後から吹き寄せた蓮華の風～」

② 11月23日(土・祝)

「出雲市内の古代中世寺院②
～出雲臣の造寺活動～」

③ 12月22日(日)

「出雲市内の古代中世寺院③
～島根半島に出現した「聖の住処」～」

● 講師 花谷 浩 (当館館長)

● 受講料 各回300円

● オンライン配信あり

講座・講演会の申込について

定員各80名 当日受付なし

事前申込必須(電話・メール・FAX)

● 申込受付時間 9～17時

● 必須事項 氏名・電話番号

氏名・電話番号を記載のうえ、

メールで申込。受講料無料

★館長古来夢

大阪市文化財協会(以下、協会)

が2025年3月31日で解散す

ることとなった。関西で考古学を

学び、文化財の仕事にも従事した

人間としては相当なシヨックだ。

協会は1979年、難波宮址顕彰

会など3団体が統合して出発し

た。大阪市の埋蔵文化財調査と歴

史研究の中核組織だ。

645年乙巳の変(大化の改新)

の後に即位した孝徳天皇は、都を

飛鳥から難波へと遷した。難波長

柄豊碕宮だ。奈良時代にも聖武天

皇が難波に副都を建設した。だが、

これら難波宮の遺跡は終戦後まで

所在すらわからぬままだった。

その解明に執念を燃やしたのが

山根徳太郎博士。わずかな出土瓦

などを手掛かりに、大坂城の南

方、法円坂の地に発掘の鋏を入

たのが1954年。顕彰会の調査

が始まった。57年に聖武朝の回

廊跡が、翌年には孝徳朝の柱穴が、

61年には聖武朝の大極殿跡も発

見され、64年難波宮跡は国史跡

に指定、保存が決定された。

個人的には大学の先輩でもある

協会の中尾芳治さんに、都城研究

のみならずカンボディアでのアン

コール遺跡の調査でお世話になっ

た。1995年、最初に彼の地へ

向かう時、協会の松尾信裕さんが

一緒だった。初対面にも関わらず

行きの航空機の中で意気投合し、

現地の暑さにめげず調査に励ん

だ。夕方のビール目当てでもある。

2年後、協会が調査する細工谷

遺跡で和同開珎の枝銭が出土し、

見に行った。古代瓦も多数出てい

るとのことで見せてもらった。軒

瓦が何種類もあり、軒平瓦には葺

き替えの痕跡もある。傍に居た松

尾さんに「これ寺やで」と言った。

その後、井戸跡から「百済尼寺」

の墨書土器が出た。予想は的中。

それにしても協会解散は悲し

い。浪速のことは夢のまた夢、か。

(花谷 浩)

(発行) 出雲弥生の森博物館

2024年10月

〒693-0011

島根県出雲市大津町2760

(TEL) 0853-25-1841

(FAX) 0853-21-6617

(E-mail) yayoi@city.izumo.lg.jp

https://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori

●入館料/無料

●開館時間/9:00～17:00
(入館は16:30まで)●休館日/火曜日
(祝日の場合は翌平日)
年末年始